

■**巫欧堂田善(永田善吉)** **絵師・銅版画家。白河藩主松平定信に抱えられて活動し、司馬江漢と並称される。**

あおうどうでんぜん
忠臣蔵・・・1748＝

岩代国須賀川の酒造業(のち染物業)永田惣四郎の次男として生まれた。

徳川吉宗没・1751＝3歳：

自然真嘗道・1755＝7歳：父惣四郎が死去し、兄丈吉が家業の染物業を継ぐ。

源内物産会・1757＝**9歳**：

兄丈吉(号・昆山)は日光廟の彩色御用も勤めたという人で、善吉も絵の指導を受けた。

大岡忠光没・1760＝12歳：

・・・・・・1762＝14歳：絵師須賀川永田善吉として、絵馬「源頼義水請之図」を須賀川の白山寺に奉納。

忠臣蔵大当り1766＝**18歳**：

田沼意次老中1772＝24歳：

大原騒動・・・1773＝25歳：妻が死去。

黄表紙始・・・1775＝**27歳**：

雨月物語刊・1776＝28歳：この年、松平定信が白河藩主となる。

シラ船蝦夷来1778＝30歳：後妻を迎え、貞順が誕生。

蘭学階梯・・・1783＝35歳：この年、司馬江漢が日本初の銅版画を制作。

意知刺殺事件1784＝**36歳**：

蝦夷初調査・1785＝37歳：_伊勢の画僧月僊を訪ねて師事する。

田沼意次失脚1786＝38歳：

寛政改革始・1787＝39歳：この年、松平定信が老中首座となり、寛政の改革を始める。

初の横綱・・・1789＝41歳：寺再建資金調達のため諸国行脚の月僊が途中に須賀川を訪れ再会。

混浴禁止・・・1791＝43歳：兄が死去したため、家業の染物業を継いだ。

松平定信引退1793＝**45歳**：この年、松平定信が老中を辞職。

ワシガ 正月・1794＝46歳：***領内巡視の藩主松平定信に画才を認められ、扶持を受け、谷文晁に入門した。**

ポルト来航・1796＝48歳：_白河城下に屋敷を与えられて御用絵師となる。

古事記伝・・・1798＝50歳：***松平定信から江戸の白河藩邸に出府するよう命じられる。**

この頃、ドイツの銅版画家リーディングの画集を模写して、「銅版下絵曳馬図帖」を制作。定信のもとには元通詞石井庄助や森島中良が禄仕しており、銅版画法の情報なども提供されたと推測される。

蝦夷地直轄始1799＝51歳：長崎へ遊学した。

本居宣長没・1801＝53歳：主命により司馬江漢に西洋画を学び、

膝栗毛始・・・1802＝**54歳**：「絵馬洋人曳馬図」を岩代の満福寺に奉納。

青洲麻酔手術1805＝57歳：「騷山比翼塚」を始め、

シラ船狼藉・1807＝59歳：銅版画「多賀城碑」を制作。

フェートン号事件1808＝60歳：宇田川玄真「医範提綱」の解剖図「内象銅版図」、

間宮海峡発見1809＝61歳：銅版画「新鑄総界全図」「日边界略図」に続いて銅版画「ゼルマニア廓中之図」「河豚図」を制作。

・・・・・・1810＝62歳：***「新訂万国全図」を完成、絵馬「佃島之図」を須賀川の諏訪明神に奉納するなど、90余点の銅版画を残す。それぞれ好評を得たが、風景銅版画に優れ、人物の点在する江戸の街頭をよく描写した。模写も決してそのまま写さず、工夫されていたが、**

ゴロブン拿捕1811＝**63歳**：

高田屋拿捕・1812＝64歳：この年、***松平定信が隠居したため、致仕、帰郷し、**

黒住教・・・1814＝66歳：石井雨考の著した句集「青かげ」の挿絵に銅版画「陸奥国石川郡大隈瀧芭蕉翁碑之図」を制作、

伊能測量終・1816＝68歳：絹本彩色「大隈瀧之図」を制作、

水野忠成老中1818＝70歳：門人の遠藤香村に油絵具の法を伝える。

・・・・・・1820＝**72歳**：

英船浦賀来航1822＝74歳：_没した。